

エドガワミズゴマツボ *Stenothyra edogawaensis* (Yokoyama)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。本県ではアシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻は殻長約 2mm と微小で、卵形。殻口は体層から狭まり円形。臍孔はない。



汐川干潟, 2001年8月5日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在8カ所である。生息場所では群生し、個体数は多い。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。東京湾以南九州まで分布する。

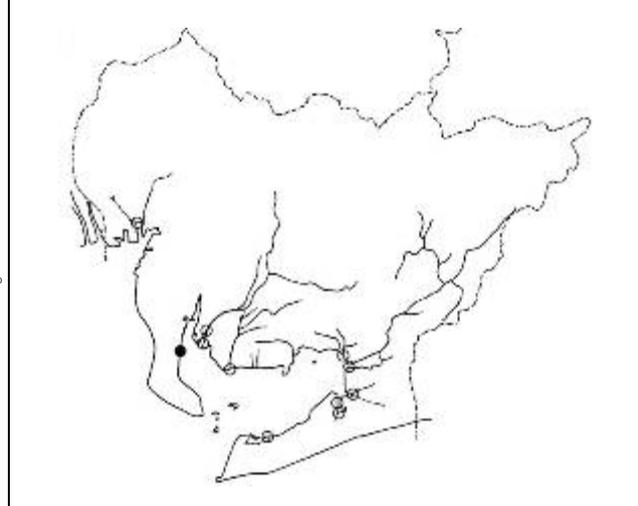
【生息地の環境 / 生態的特性】

県内では上述したようなアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地や泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県(2000)では一般保護生物にランクされている。

【引用文献】

- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

カズラガイ *Phalium variegatum* Perry

【選定理由】

本種は湾口部から外洋にかけての潮下帯砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部から伊勢湾湾口部、渥美外海にかけて操業する底引き漁船により採集されるが、個体数は少ない。近似種のナガカズラガイは本種と同所的に生息する場合もあるが、外洋性が強く、渥美外海に主分布域があり、渥美半島外海側の海岸では多くの個体が打ち上げられることがよく知られており (中山,1979)、現在でも個体数は多い。

【形態】

殻高約 6cm の卵形の貝で、殻はやや厚く黄色褐色の縦縞がある。殻口は大きく開き、肥厚する。蓋は革質でやや小さく細長い扇形。ナガカズラガイと同種もしくは亜種とする説もあるが、両種は貝殻の形態で明確に区別され、生息場所も違いがあり別種である。本種はナガカズラガイと比べてやや小型で、殻全体の丸みが強く殻質はやや薄く、殻表面の螺肋は明瞭である。また、本種の縦縞と殻の地色のコントラストはナガカズラガイと比べて不明瞭で、全体的な殻の色彩はくすんでいる。



渥美半島沖水深 20-30m(底引き網), 1997 年 9 月 12 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

【選定理由】の項参照。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では房総半島以南九州まで分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

【選定理由】の項参照。

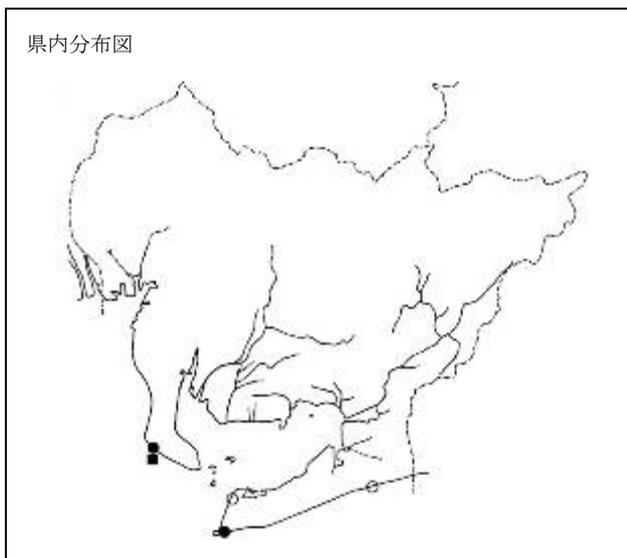
【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館 (2001) ではナガカズラガイが減少にランクされ、本種は元々きわめて稀な種として対象外になっている。

県内分布図



【引用文献】

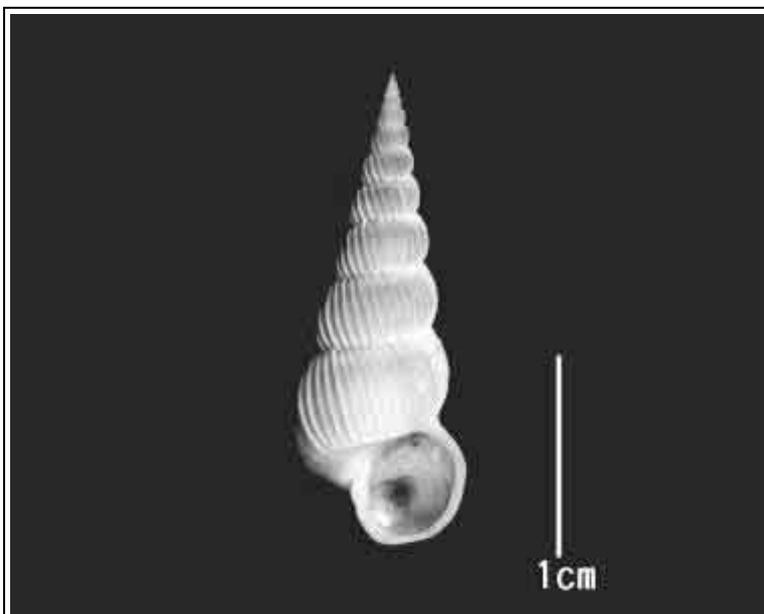
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

中山 清, 1979. カズラガイとナガカズラガイの殻高と殻径の比と肋数の比較. かきつばた, 5: 3-4. 名古屋貝類談話会.

クリンイトカケ *Amaea thielei* (de Boury)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村、1996a,b：木村、1999：木村、2000)。和田ほか(1996)では、希少とランクされている。



南知多町日間賀島南沖水深 5-6m(ドレッジ), 1994 年 10 月 11 日, 木村昭一 採集

【形態】

殻高約 2.5cm の高い塔型で殻は白色から薄いクリーム色で殻質は薄い。殻表は細かい布目状彫刻がある。蓋は革質で黄色い。

【分布の概要】

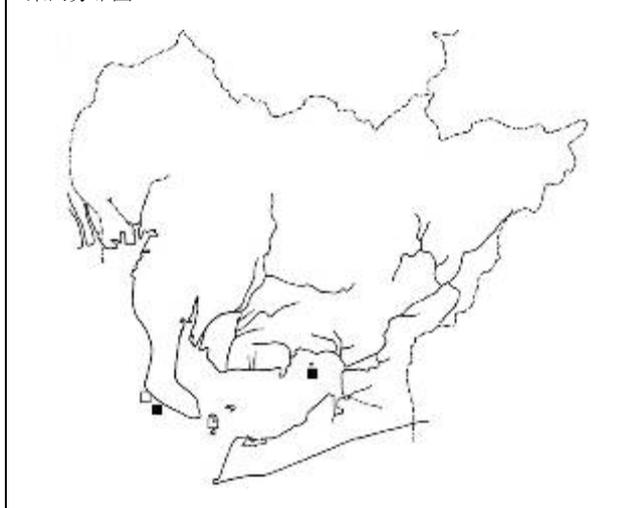
【県内の分布】

上述したように生息数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。房総半島以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、三河湾奥(蒲郡市沖)では古い死殻が稀に採集されるのみで、生息状況は確実に悪化している。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

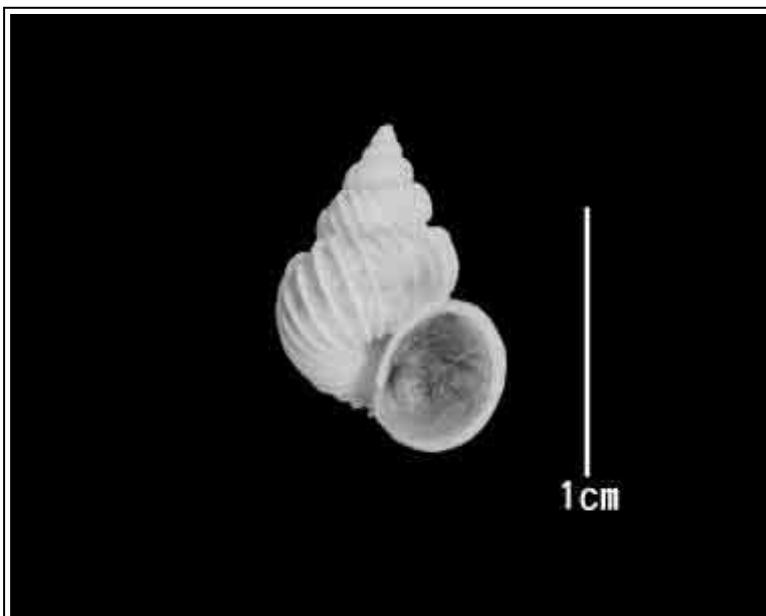
【引用文献】

- 木村昭一, 1996a. クリンイトカケガイとコガタクリンイトカケガイの分類学的再検討(腹足類・盤足目:イトカケガイ科). コリヤガイ, 4 (1・2): 103-108. 山口県貝類研究談話会.
 木村昭一, 1996b. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

セキモリ *Papyriscala yokoyamai* (Suzuki et Ichikawa)

【選定理由】

本種は内湾奥の潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は豊川河口域、三河湾奥(蒲郡市沖)などで生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村,1996;松岡ほか,1999)。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。



蒲郡市沖水深2m(ドレッジ), 2001年9月13日, 木村昭一 採集

【形態】

殻高約1.5cmの低い塔型で殻は白色で螺層に褐色の色帯がある。殻表はやや強い縦肋がある。蓋は革質で褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド・西太平洋。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、生息場所、生息数とも明らかに減少している。

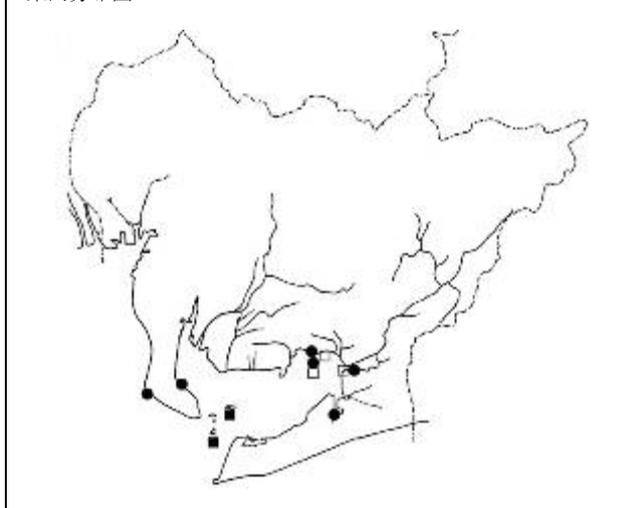
【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では減少にランクされている。

県内分布図



【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

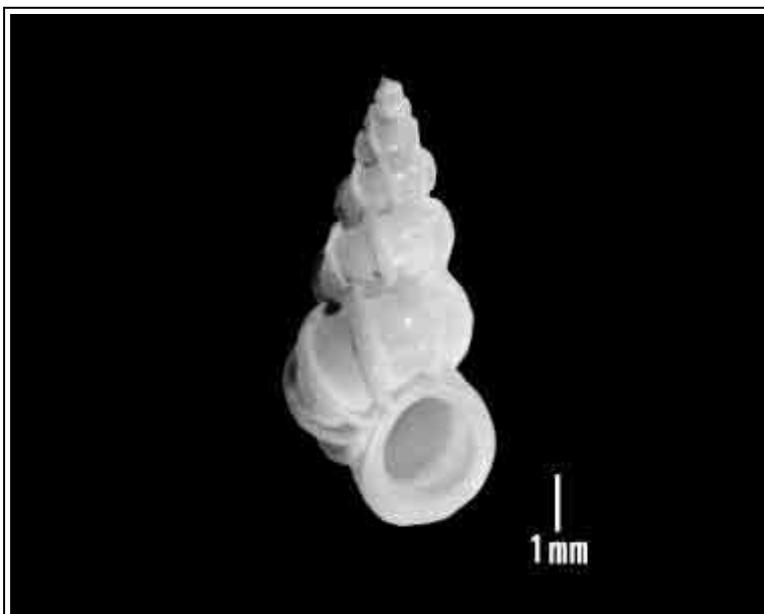
シノブガイ *Laeviscala angusta* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾奥の潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾奥(蒲郡市沖)、三河湾口部などで生貝が採集されているが、個体数は少ない(木村,1996:木村,2000)。

【形態】

殻高約1cmの高い塔型で殻は白色で殻は厚い。殻表には強い縦肋があり光沢がある。蓋は革質で褐色。



蒲郡市沖水深2m(ドレッジ), 2001年9月13日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

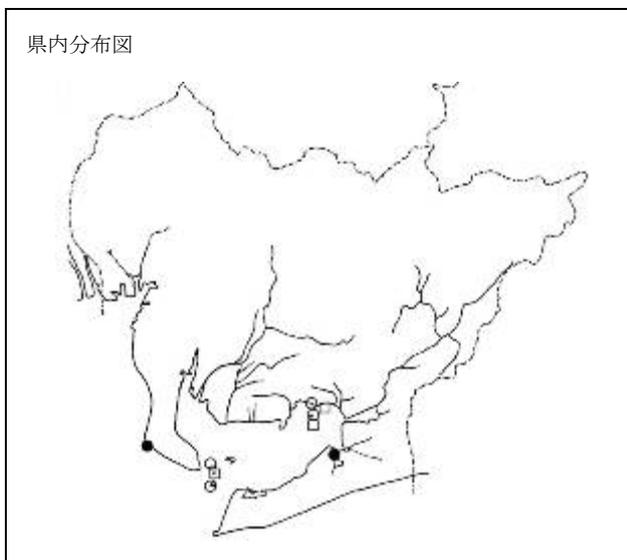
【県内の分布】

上述したように生息数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、生息場所、生息数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

【引用文献】

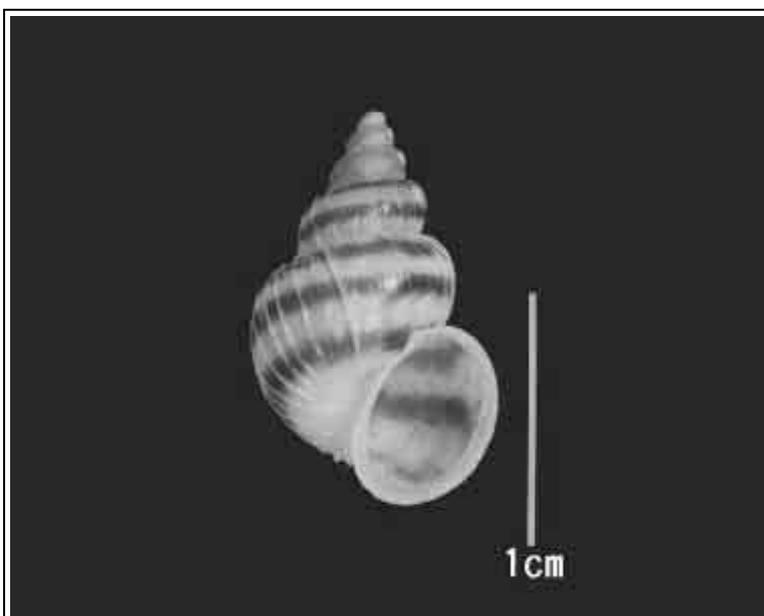
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

クレハガイ *Papyriscala latifasciata* (Sowerby)

【選定理由】

本種は内湾奥の潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は豊川河口域、三河湾奥（蒲郡市沖）、日間賀島南沖などで生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない（木村,1996：松岡ほか,1999）。和田ほか（1996）では、希少とランクされている。



名古屋市藤前干潟, 2001年7月20日, 木村昭一 採集(打上げ死殻)

【形態】

殻高約 1.5cm の低い塔型で殻は白色で螺層に 3 本の褐色帯がある。殻表にはやや強い縦肋があり光沢がある。蓋は革質で褐色。

【分布の概要】

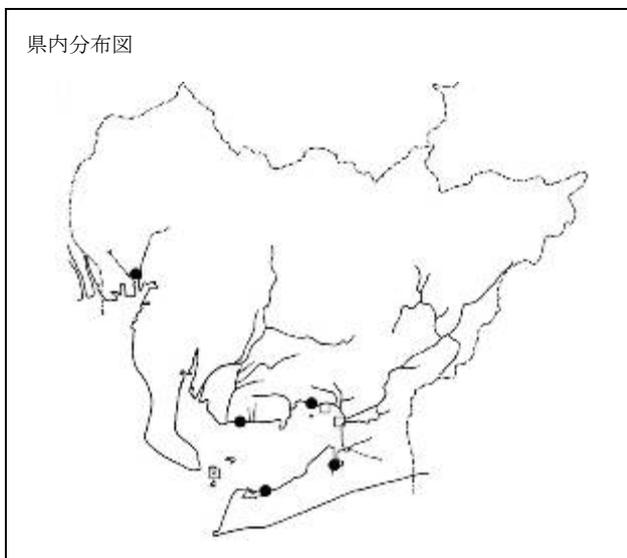
【県内の分布】

上述したように生息数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、西太平洋。国内では相模湾以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、生息場所、生息数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

モソソガイ *Volutharpa ampullacea perryi* (Jay)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には普通種であった(愛知県科学教育センター,1967)が、1990年代に三河湾湾口部篠島近海のたこつぼ漁で生貝を得て以来、近年死殻もほとんど採集できない(木村,2000)。

【形態】

殻高約5cmの卵形の貝で、殻は薄く厚い殻皮で覆われる。殻口は大きい。蓋は革質で非常に小さく退化的で、蓋のない個体もある。



篠島沖水深10m(たこつぼ漁), 1994年12月, 木村昭一 採集

【分布の概要】

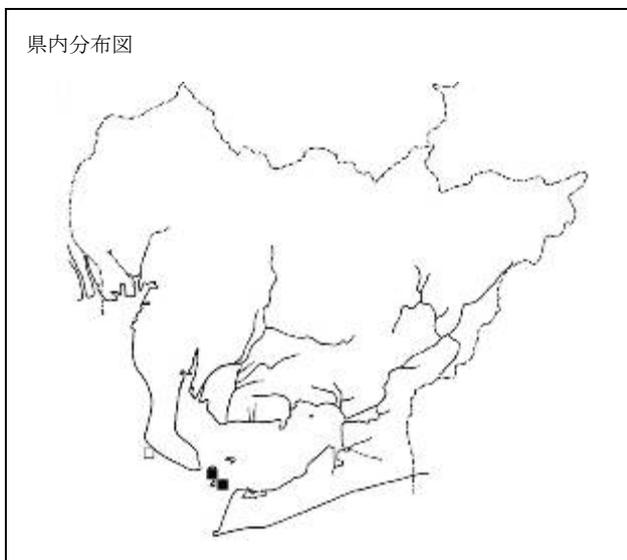
【県内の分布】

上述したように潮下帯より1990年代には、比較的多くの生貝が採集されたが、近年全く生貝が採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。瀬戸内海以北北海道まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような生息環境の悪化のほか、本種についてはバイ(堀口,1998)の様に有機スズ化合物による雌の雄化により個体数が減少した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

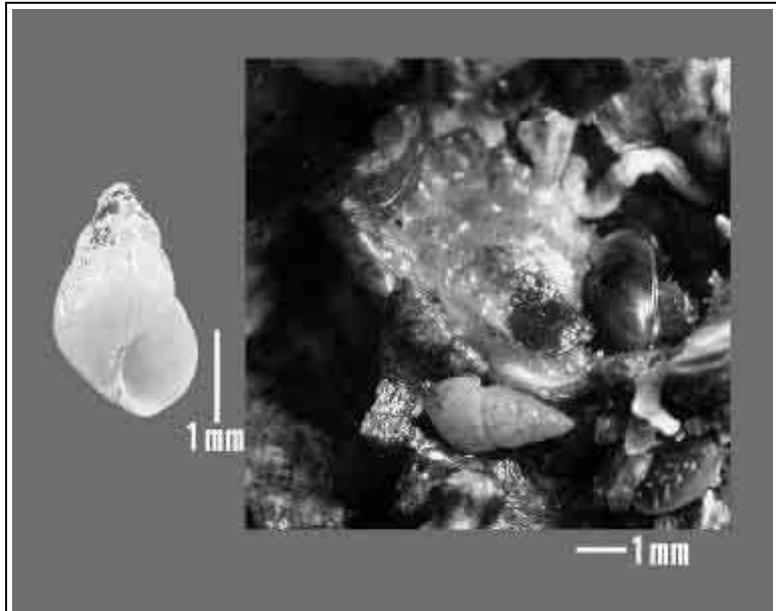
堀口敏広, 1998. インボセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 117: 283-288.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

カキウラクチキレモドキ *Brachystomia bipyramidata* (Nomura)

【選定理由】

本種は河口域から内湾の干潟や岩礁に生息するマガキの体液を吸って生きている。宿主であるマガキはかなり水質汚濁、護岸工事等で生息環境が悪化した場所でも多産するが、本種は生息環境が良く保全された場所に生息するマガキにのみに寄生する。従って健全な個体群が保存されている生息地は限られている。和田ほか (1996) では、危険とランクされている。



蒲郡市三谷地先人工干潟付近護岸, 2004年8月17日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長約 4mm 微小な白色の貝。成長脈はやや荒く、軸唇には弱い襞が 1 本ある。

【分布の概要】

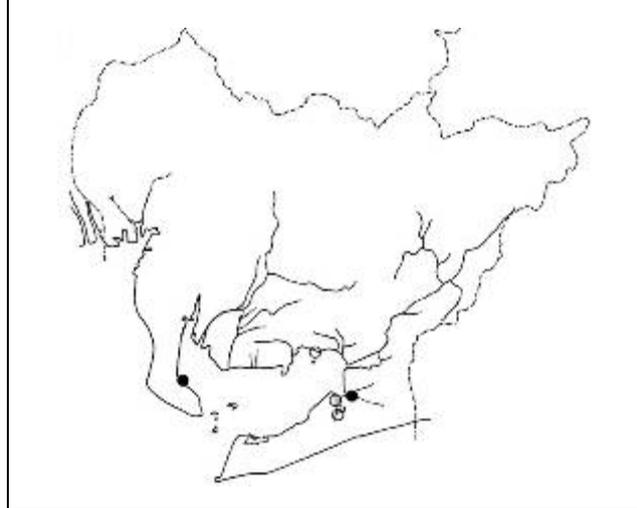
【県内の分布】

上述したように生息場所は限られている。汐川干潟の広大なマガキ床には大きな個体群が保存されている。ただし、年によって生息数に変動が認められる。水質の改善によって、いままでみられなかったマガキの群集に新たに生息が確認される例もある (木村, 2004)。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。松島湾、三河湾、瀬戸内海、有明海、富岡湾に分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように県内では、まだ健全な生息地が残っているが、生息環境が悪化した場所では生息が認められないので注意を要す。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

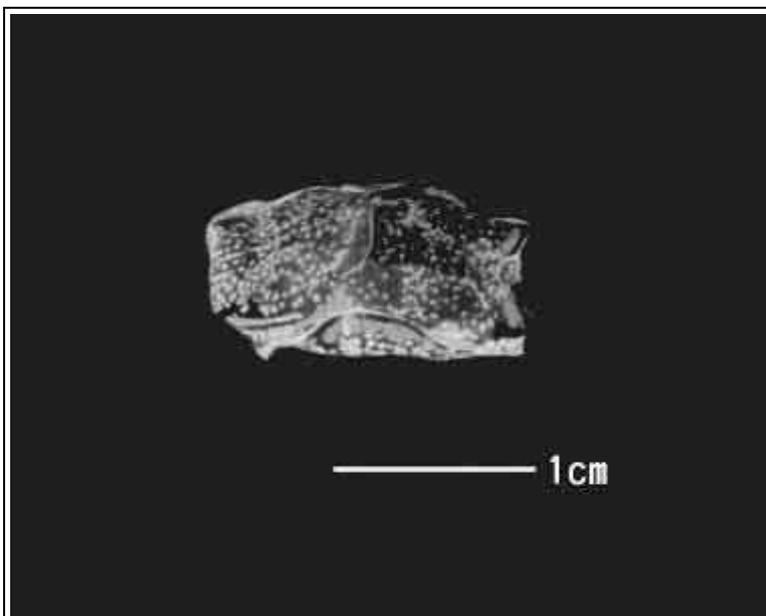
【引用文献】

木村昭一, 2004. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相. かきつばた, 30: 14-20. 名古屋貝類談話会.
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

カノコキセワタガイ *Agalaja gigliolii* (Tapparone-Canefri)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾、伊勢湾知多半島沖のアマモ場周辺で現在でも採集されるが、個体数は少ない(木村,1996:木村,2000)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。



蒲郡市沖水深 2m(ドレッジ), 2001 年 9 月 13 日, 木村昭一 採集

【形態】

体長約 3cm の長方形の軟体部で、暗褐色の地色に灰白色の小班が散在していて、独特な外見を呈する。

【分布の概要】

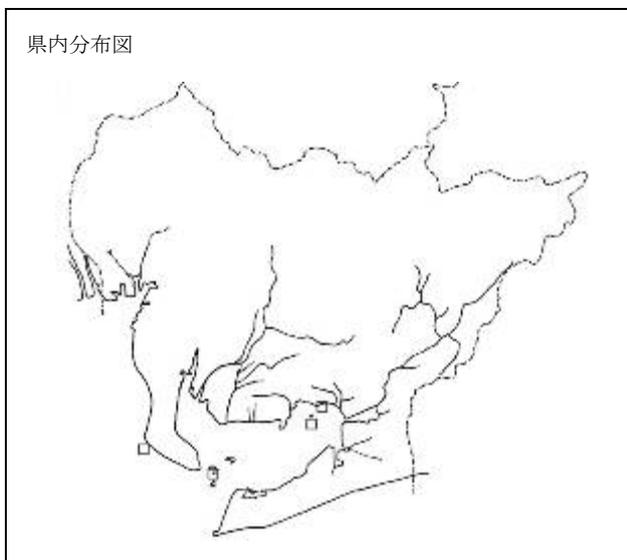
【県内の分布】

上述したように潮下帯のアマモ場周辺に分布する。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では相模湾以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアマモ場の面積が県内では著しく減少しているため、本種の生息場所、個体数とも減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

アマモ場を含めた内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟の保全や、水質の富栄養化を防止することが必要である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

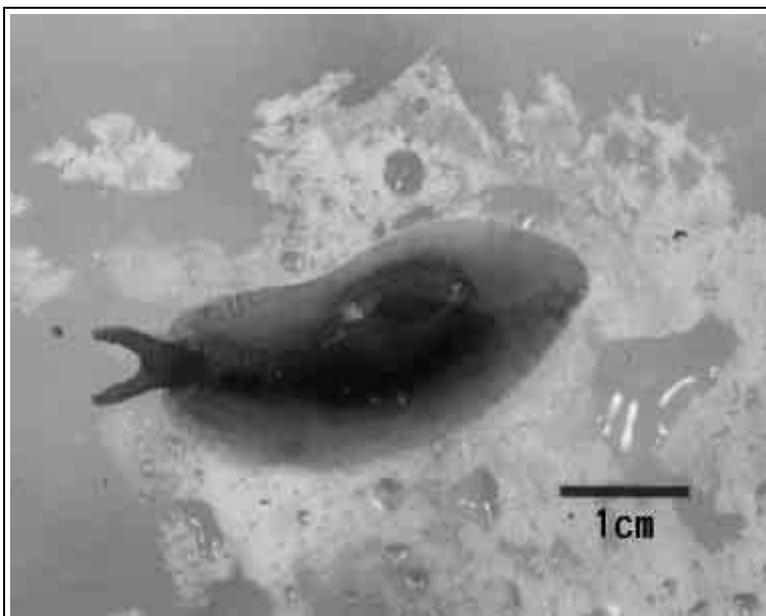
ウミナメクジ *Petalifera punctulata* (Tapparone-Canefri)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯アマモ場にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。またアマモ場も非常に減少している。本種は三河湾、伊勢湾知多半島沖のアマモ場のアマモの葉上より現在でも採集されるが、個体数は多くない(木村,1996: 木村,2000)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。

【形態】

体長約 4cm 程度であるが、軟体部を伸展させると 10cm に達する。和名の通りナメクジによく似た軟体部で、色彩は美しい緑色から暗褐色まで個体によって変異する。



蒲郡市沖水深 2m(ドレッジ), 2001 年 9 月 13 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

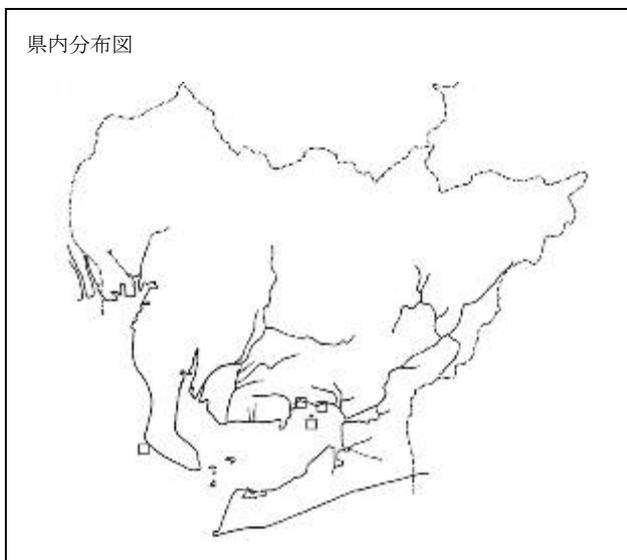
【県内の分布】

上述したように県内潮下帯のアマモ場のアマモ葉上に付着して生息する。

【世界及び国内の分布】

日本、中国。国内では本州の青森県以南に分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアマモ場自体の面積が県内では著しく減少しているため、本種の生息場所、個体数とも減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

アマモ場を含めた内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟の保全や、水質の富栄養化を防止することが必要である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

キヌタレガイ *Petrasma pusilla* (Gould)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖の水深 5m から 20m の泥底より採集されるが、個体数は少ない(木村,1996: 木村,2000)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。

【形態】

殻長約 1cm の円筒形の貝で殻は薄い。殻皮は厚く光沢が強く、腹縁を越えてのびる。



知多半島内海沖水深 8-10m(ドレッジ), 2007 年 8 月 8 日, 木村昭一 採集
(上: 生体, 下: 乾燥標本)

【分布の概要】

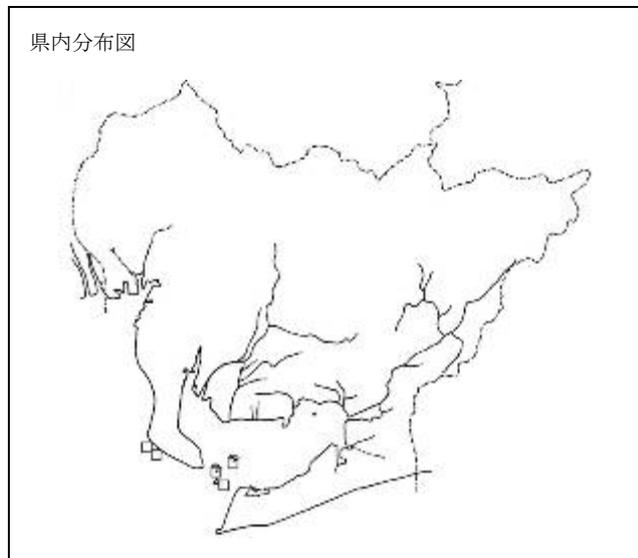
【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部、知多半島伊勢湾側の潮下帯の泥底に分布する。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

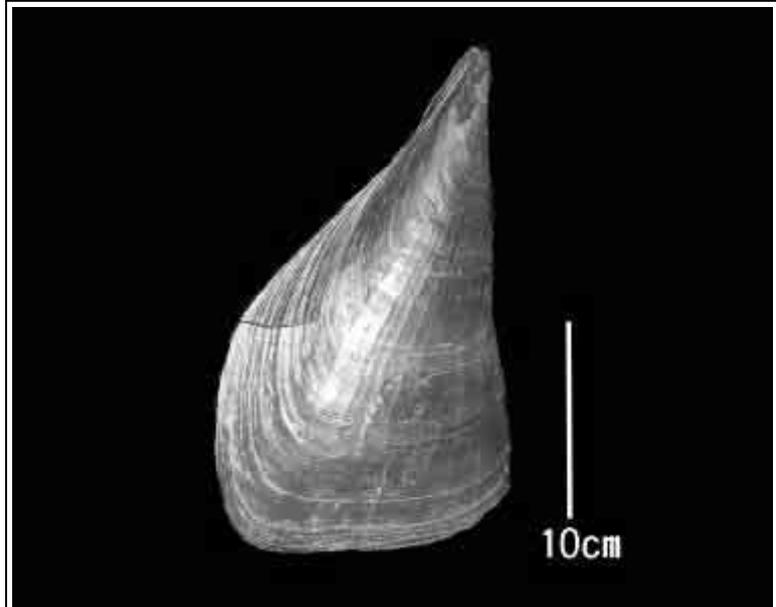
【引用文献】

- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

タイラギ *Atrina pictinata* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底に突き刺さるように深く埋没し、後端だけを出してすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾奥部の渥美湾で海水浴客が誤って踏んで足をけがするほど多産した(愛知県科学教育センター, 1967)。しかし、近年三河湾奥部では死殻すら採集できない。三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺では現在も漁業対象種となっており、主に潜水漁で採捕されているが、その量は年々減少し、水深30mを越えるような深場に潜水しなければ採算がとれなくなっている(日間賀島漁協聞き取り調査)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。



南知多郡師崎東沖水深20m(ダイビング・日間賀島水揚げ), 1995年3月, 木村昭一 採集

【形態】

殻長30cmを越える大型種。長い三角形の殻で、黒褐色。殻はやや厚いが脆い。貝殻中央部の貝柱は大きく美味で、高価に取り引きされる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺の潮下帯に分布し、漁業対象種になっているが、資源量は減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では福島県以南から九州まで分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように県内の潮下帯は環境が悪化しているため、本種の生息場所、生息数とも減少している。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

水産資源保護協会(1997)では減少にランクされている。

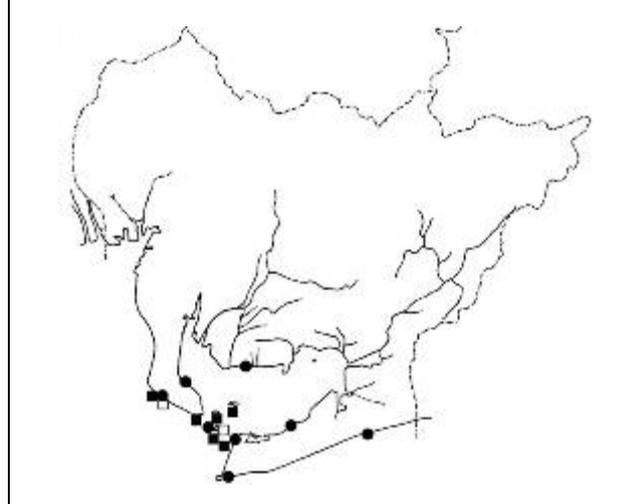
【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

水産資源保護協会, 1997. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(IV), 126pp.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図



ツキガイモドキ *Lucinoma annulatum* (Reeve)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では生貝が採集されるが、個体数は少ない(中山,1980:木村,1996:木村,2000)。

【形態】

殻長約3cmで殻は類円形で膨らみは弱い。殻表は間隔の広い板状の輪肋がある。殻は白色であるが、生時や新鮮な死殻には茶褐色の殻皮がある。



南知多町日間賀島南沖水深10m(ドレッジ), 1995年3月15日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

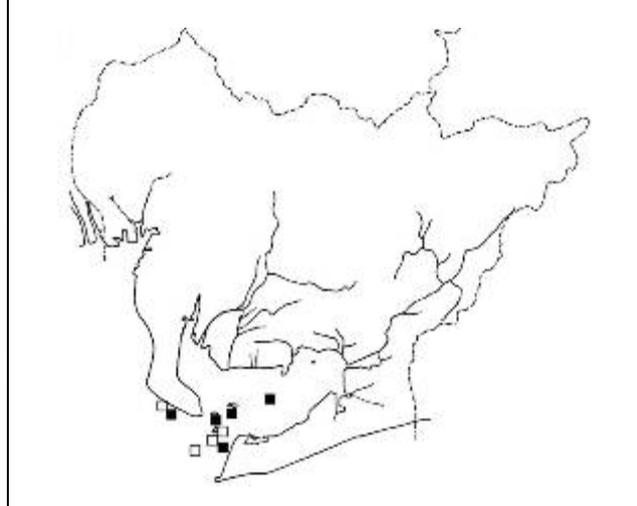
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、アラスカ、カリフォルニア。国内では北海道から東シナ海に分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.

ミルクイ *Tresus keenae* (Kuroda et Habe)

【選定理由】

本種は内湾の浅海域(潮下帯)の砂泥底に生息する大型の二枚貝。本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底に太い水管を出してすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種はミルガイと呼ばれ高級すしだねとして三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺では現在も漁業対象種となっている。ただし、近年20年間で資源量が激減し、それまでほとんど利用されなかったシロミル(標準和名ナミガイ)を代用として採捕し、本種は現在、水深30mを越えるような深場で少数が採捕されているにすぎない(日間賀島漁協聞き取り調査)。和田ほか(1996)では危険にランクされている。



幡豆郡沖三河湾水深10-20m(東幡豆漁港水揚げ桁網), 2005年5月19日, 木村昭一 撮影

【形態】

殻長15cmを越える大型種。楕円形で殻は厚く膨らむ。後端は幅が広く裁断状で殻の間は広くあく。殻は白色だが殻皮は黒褐色で厚い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように三河湾湾口部、伊勢湾知多半島南部周辺の潮下帯に分布し、漁業対象種になっているが、個体数は非常に減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島。国内では北海道から九州まで分布する。

【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

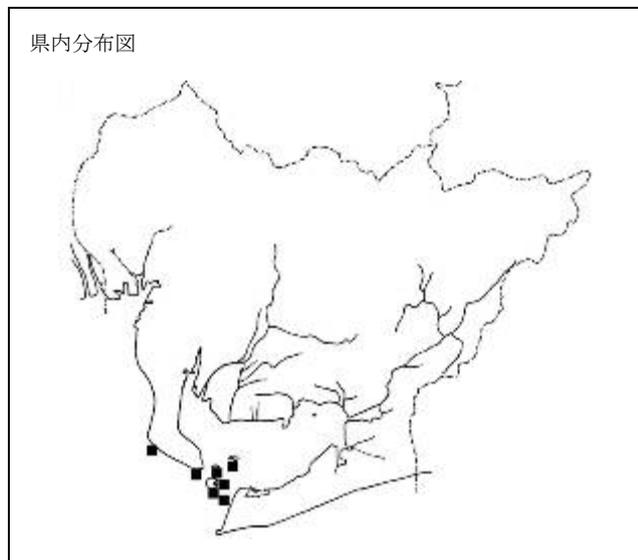
【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図



ユウシオガイ *Moerella rutila* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾の最も奥部の砂泥干潟に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は現在でも汐川干潟(藤岡・木村,2000)、豊川河口域(松岡ほか,1999)、蒲郡市などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻長約 1.5cm で殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、白色、黄色、橙色など個体変異がある。後端は裁断状。



蒲郡市三谷沖水深 1m(ダイビング), 2001 年 9 月 13 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

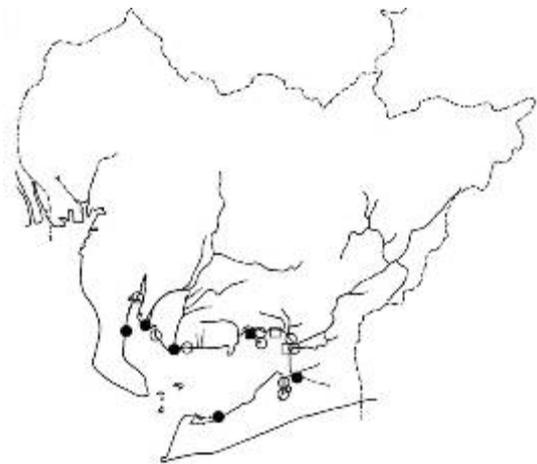
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国、台湾。国内では陸奥湾以南九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県(2000)では最重要保護生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.
- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
- 松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24
- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

サクラガイ *Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe)

【選定理由】

本種は内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾奥部から湾口部にかけての広い範囲で打ち上げられる貝としてごく普通で、また多産したが(愛知県科学教育センター,1967)、現在では打ち上げられる海岸も激減し、明らかに生息場所、生息数とも減少している。近年でも三河湾湾口部の一部では健全な個体群が残っているが、そのような場所は少ない(木村,1996;木村,2000)。



南知多町河和, 1993年2月2日, 木村昭一 採集(打上げ死殻)

【形態】

殻長約2cmで殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平。殻は薄く桃色で殻表は平滑で光沢がある。

【分布の概要】

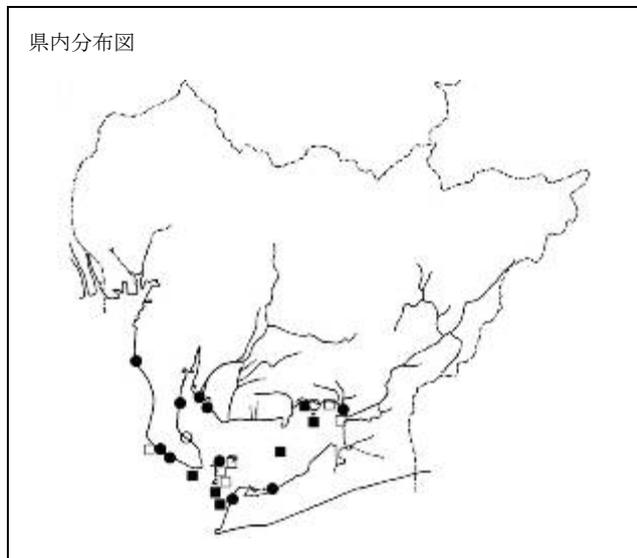
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、ニューカレドニア。国内では北海道南西部以南に分布する。

県内分布図



【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では減少にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
- 木村昭一, 1996. ドレヅジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
- 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレヅジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

ウズザクラ *Nitidotellina minuta* (Lischke)

【選定理由】

本種は内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。現在でも三河湾湾口部の一部では健全な個体群が残っているが、そのような場所は少ない(木村,1996:木村,2000)。



南知多町日間賀島南沖水深 10m(ドレッジ), 1995年3月15日,
木村昭一 採集

【形態】

殻長約 1cm で殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平。殻は薄く、白色から桃色で殻表は成長脈がやや強いが光沢が強い。

【分布の概要】

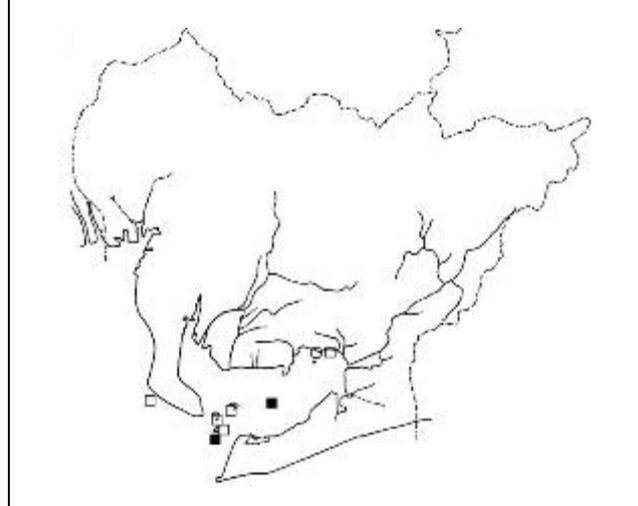
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では北海道南西部以南九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

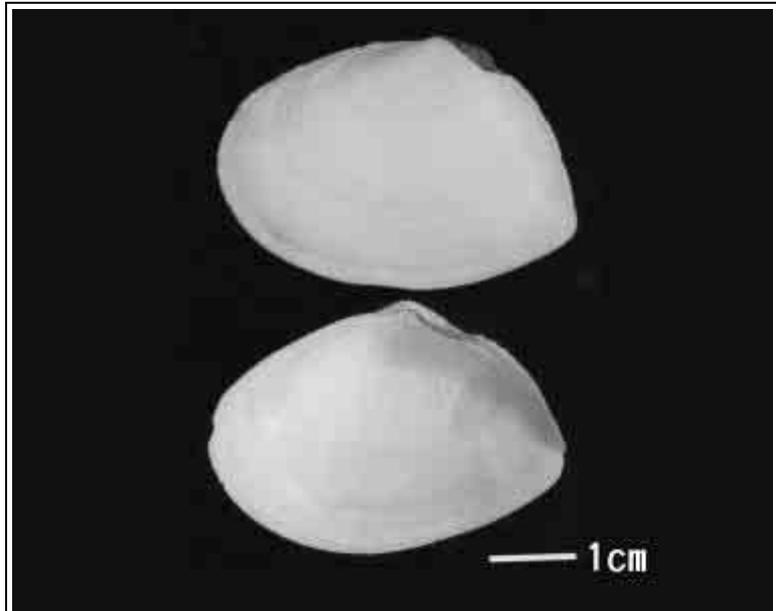
【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

サギガイ *Macoma sector* Oyama

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で多くの死殻が打ち上げられていたが、近年その個体数が激減している。近年3年間で知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村,2000)。



南知多町内海沖水深3m(ドレッジ), 2000年7月27日, 木村昭一 採集(死殻)

【形態】

殻長約5cmで、殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻は薄く、白色。後背縁は張り出して左にねじれる。

【分布の概要】

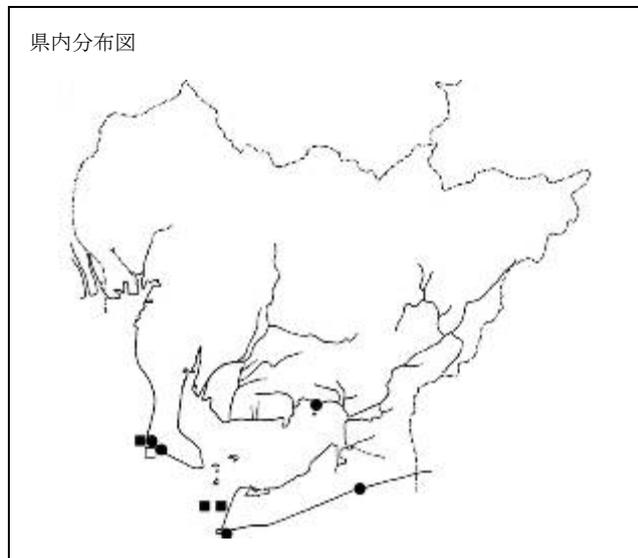
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、サハリン、台湾、中国。国内では北海道から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

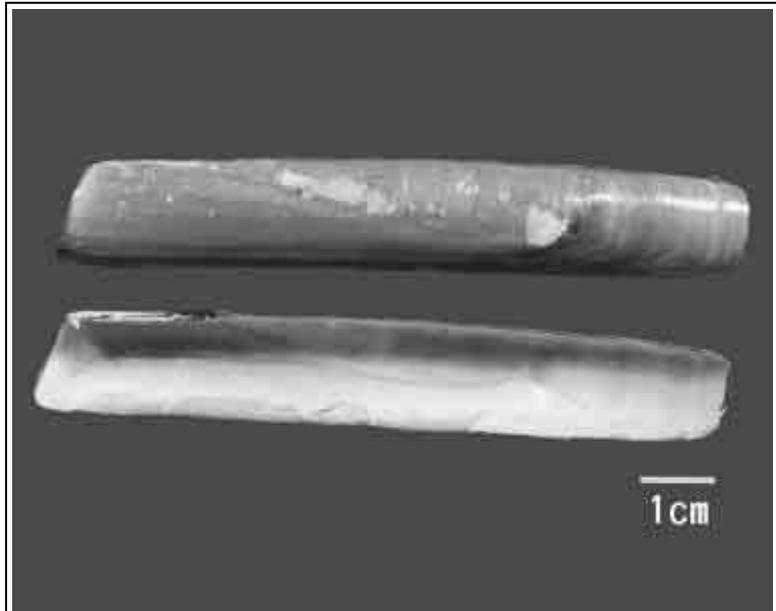
【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

マテガイ *Solen strictus* Gould

【選定理由】

本種は内湾の砂質干潟に深く潜って生息する。食用種として有用で、干潟の表面にできた水管の出入りする孔に塩を入れて、出てきた本種を採取することはよく知られている。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本県でも本種は砂質干潟に多産し、食用にされていた(愛知県科学教育センター,1967)が、近年生息数が著しく減少し、多産する場所は消失した。現在でも一色干潟や知多半島南部では生貝が採集されるが、稀な種になってしまった。



幡豆郡鳥羽干潟, 2001年7月15日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長約 10cm で殻は前後に著しく延長した長方形で直線的で、膨らみは弱い。殻はやや薄く、両端は裁断状。殻表は平滑で、生きている時は黄褐色の殻皮を被る。

【分布の概要】

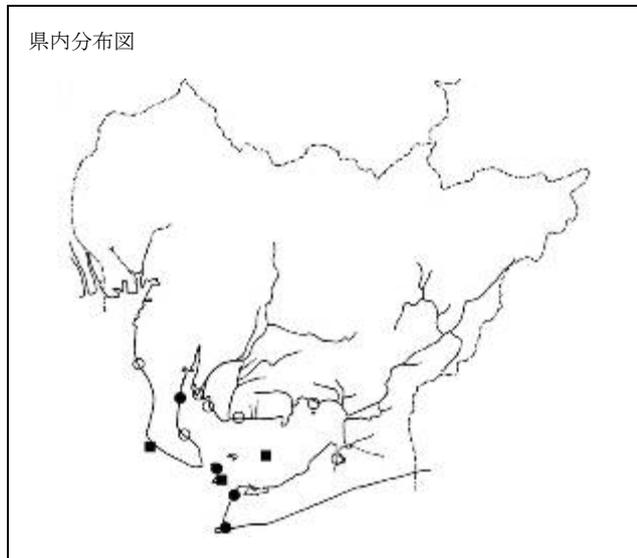
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では北海道南西部以南九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

フスマガイ *Clementia vatheleti* Mabilie

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯から水深約100mまでの砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。近年3年間で知多半島伊勢湾側や三河湾湾口部をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村,2000)。ただし、渥美外海の水深50~100mで操業する底引き漁船が個体数は少ないが本種の生貝を採集してくるので、渥美外海には現在も生息場所があるようである。和田ら(1996)では危険とランクされている。



南知多町日賀島南沖水深10m(ドレッジ), 1995年7月24日, 木村昭一 採集(死殻)

【形態】

殻長約7cmで、殻は薄く、膨らみが強い。殻頂部は高くなり、成長脈は強く波打つ。

【分布の概要】

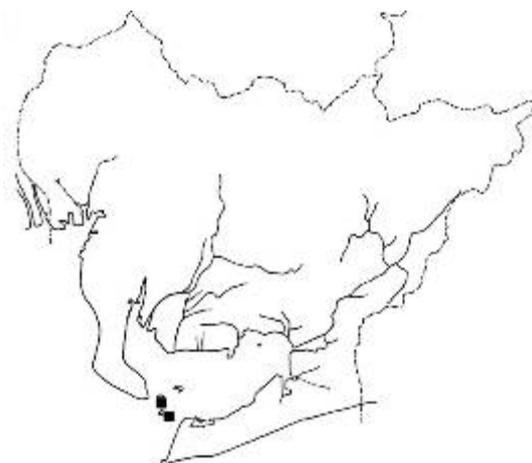
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、内湾域では生貝が採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、東南アジア。国内では北海道以南から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。近年内湾域では生貝が採集されない。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

オオノガイ *Mya (Arenoma) oonogai* Makiyama

【選定理由】

本種は内湾奥部の泥干潟に深く潜って生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は現在でも汐川干潟(藤岡・木村,2000)、一色干潟などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。本種は太い水管が食用となり、現在でも自家消費的に採集されている。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。



幡豆郡鳥羽干潟, 2001年7月15日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長約9cmと殻は大型であるが薄く、膨らみはやや弱い。殻は白色で、生きている時は褐色の殻皮を被る。

【分布の概要】

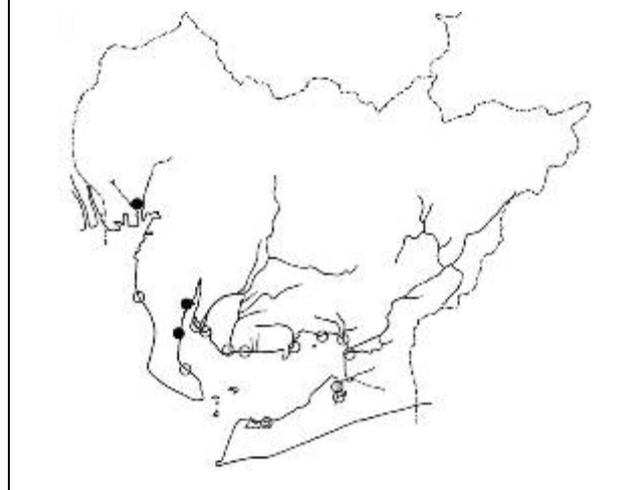
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では北海道以南九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.
- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

クチベニガイ *Solidicorbula erythrodon* (Lamarck)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮間帯から潮下帯の砂底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で新鮮な死殻が比較的多く打ち上げられていたが、近年はほとんど採集することができない。近年3年間のドレッジ調査で、知多半島伊勢湾側より多くの生貝が採集されたが、その生息範囲は狭く、その他の海域では死殻すら採集されない(木村,2000)。



南知多町内海沖水深3m(ドレッジ), 2000年7月27日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長約2.5cmで、殻は極めて厚く、よく膨らむ。殻表には低い輪肋があり、右殻は左殻より大きい。殻の表面は白色で、内面は淡黄色で周縁は和名の由来となっている様に濃い赤紫色。

【分布の概要】

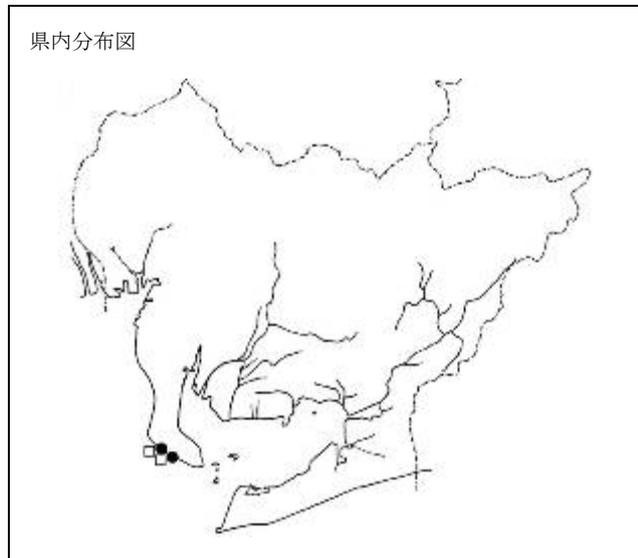
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、生貝が多産する範囲は狭い。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国。国内では房総半島から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。生貝は透水性の高い潮下帯(水深約10mまで)の砂底に限定され、生息範囲が著しく狭い。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県(2000)では要保護生物にランクされている。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

オキナガイ *Laternula anatina* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯の砂泥底にすむ。また外洋の潮下帯から水深50m程度の砂泥底にも生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で生貝が少数採集されている(木村,1996:木村,2000)が、三河湾奥部では死殻しか採集できず、近年生貝が採集されていない。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。



蒲郡市沖水深5m(ドレッジ), 1995年4月30日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長約4cmで、殻は長楕円形で膨らみはやや強い。殻は非常に薄く半透明。殻表には微小な顆粒状の突起があり、ざらざらしている。

【分布の概要】

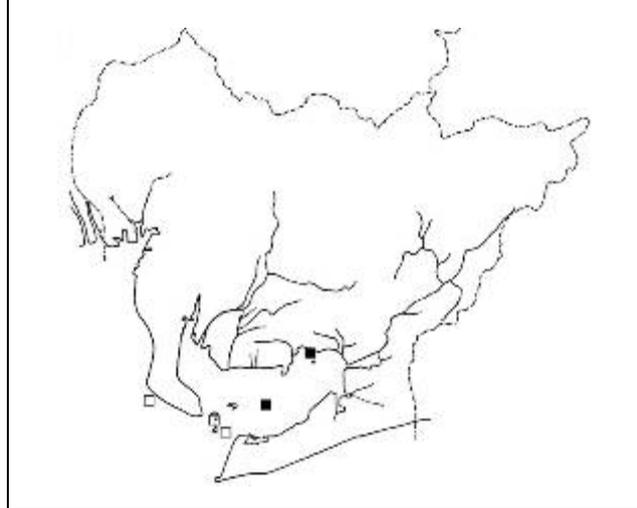
【県内の分布】

上述したように、県内内湾域では生息場所、生息数が減少し、三河湾奥では生息が確認できない。ただし、渥美外海では現在でも底引き網漁船により生貝が採集されている。

【世界及び国内の分布】

日本、中国、東南アジア、インド洋。国内では房総半島以南九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。渥美外海の潮下帯から水深約50mの砂泥底では内湾域と比べて多くの個体が生息しているようである。

【保全上の留意点】

上述したように県内内湾の干潟から潮下帯の環境を保全する。

【特記事項】

千葉県(2000)では重要保護生物にランクされている。

【引用文献】

- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ソトオリガイ *Laternula marilina* (Reeve)

【選定理由】

本種は内湾の河口域や奥部の泥干潟に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は現在でも汐川干潟(藤岡・木村,2000)、豊川河口域(松岡ほか,1999)、矢作川河口域などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。



矢作川河口, 1995年8月28日, 木村昭一 採集

【形態】

殻長約5cmで、殻は長楕円形で膨らみは強い。殻は非常に薄く、白色で半透明。後端は開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、中国、東南アジア。国内では北海道以南九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県(2000)では要保護生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.
- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
- 松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24
- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

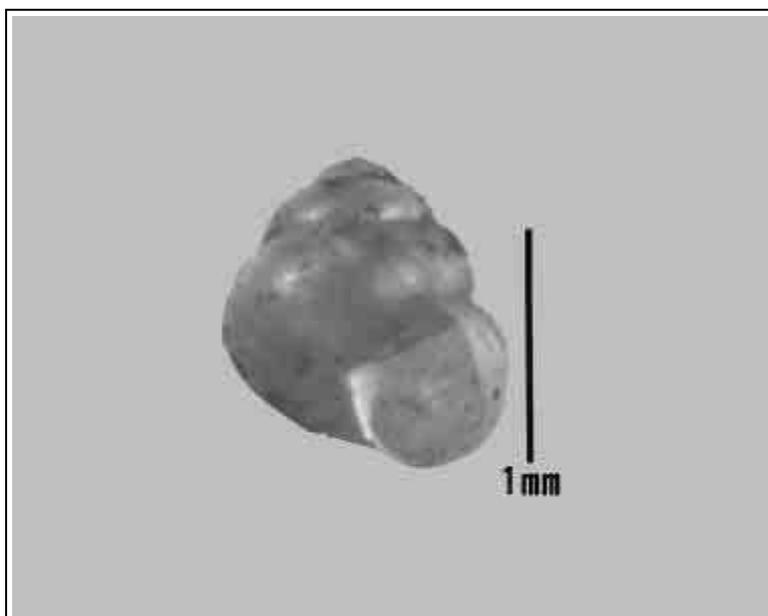
ヒラドマルナタネ *Pupisoma harpula* Reinhardt

【選定理由】

県内各地の分布記録はあるものの極稀産であるため、情報不足種とするのが適当と考えられる。県内の記録は殆ど死殻である。

【形態】

殻は卵状の円錐形で、殻口2mm、殻径1.7mm、3 1/2層。丸みを帯びた螺状形。殻表に細脈があり、殻口は著しく斜位で卵形、口縁はうすく内唇は広がり反転する。臍孔がある。近似種のマルナタネガイとは臍孔の有無で容易に区別される。



新城市(旧鳳来町)名越 大社神社, 1999年10月3日, 河辺訓受 採集

【分布の概要】

本州、四国、九州に分布するが記録は多くない。

【生息地の環境 / 生態的特性】

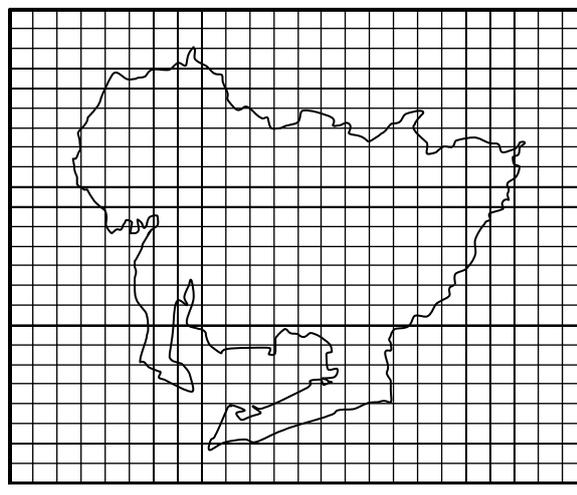
マルナタネガイと同様、柑橘類や梅などの古木の枝や葉裏に生息するが、コンクリート壁に付着していることもある。県内では死殻採集のため、杉の落葉中から発見された。

乾燥には非常に強い。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

1999年10月3日、鳳来寺山周辺の調査(名古屋貝類談話会)の際、新城市(旧鳳来町)名越六社神社境内の雑草混じりの杉の落葉中から死殻2個体を採集した。「北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類」(柴田,1995)や「東奥三河の陸産貝類」(中根,1965)では石巻山嵩山が記録されている。また、豊田市からも記録されている(守谷,2003)。

県内分布図



【保全上の留意点】

消毒液がかからない自然状態に放置された柑橘類や、梅の古木の保全が必要である。環境変化の少ない庭木として保全される場合も有効と考えられる。

【引用文献】

柴田吉夫, 1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類, p.74. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会.

中根吉夫, 1965. 東奥三河の陸産貝類, p.207. 天竜・奥三河自然公園調査団.

守谷茂樹, 2003. 愛知県と岐阜県で確認したヒラドマルナタネ. かきつばた, 29. 名古屋貝類談話会.

【関連文献】

野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物. 愛知県郷土資料刊行会.

東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.33. 保育社.

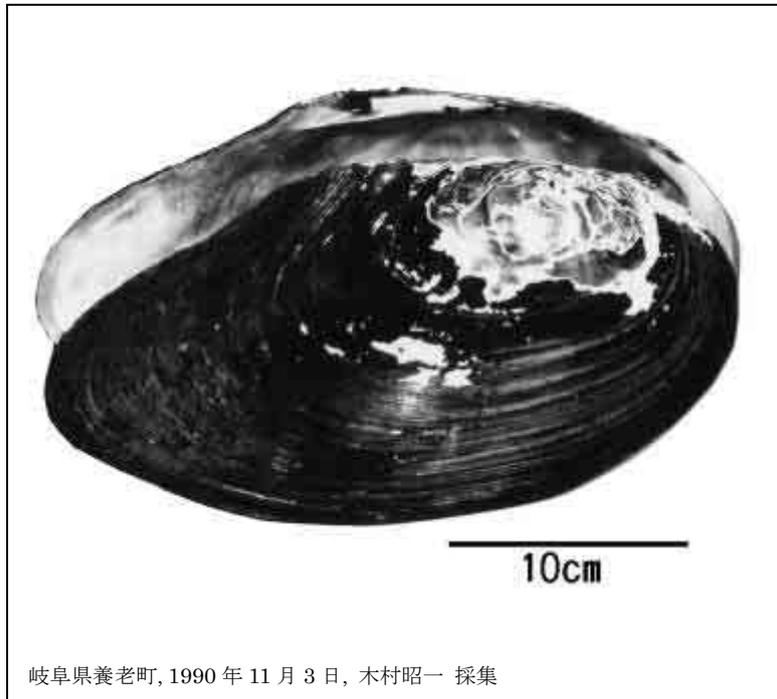
カラスガイ *Cristaria plicata* (Leach)

【選定理由】

本種は湖沼や流れのほとんどない河川の下流部など止水的環境にのみ生息する。ただし、生息地については報告が少なく、本県からの正式な生息記録はない。木村(1994)では三重・岐阜・愛知・静岡県を調査したにもかかわらず岐阜県で1カ所生息地を確認したのみである。

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては最大種で殻長30cmを越える。イシガイ科貝類は総称的にカラスガイと呼ばれることが多いが、標本を見るとドブガイであることがほとんどである。カラスガイには主歯はないが後側歯があり、主歯も後側歯もないドブガイとの区別は明確である。



【分布の概要】

【県内の分布】

県内では正式な生息記録はないが、津島市で数個体採集されている(原田一夫氏私信)。岐阜県南部の本種は移入された個体群とされることもある。

【世界及び国内の分布】

朝鮮、中国、台湾、ソ連、東南アジアに分布。国内では本州から九州の湖沼やほとんど流れのない河川に分布するとされているが、分布は局地的である。

【生息地の環境 / 生態的特性】

上述したように湖沼やほとんど流れない河川の下流域に生息するが、生息地は飛び飛びで、本種の生息環境や生態的特性については情報不足である。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述の通り生息地についての情報が不足しており、もともと希少な種なのか近年の生息環境破壊で生息場所が減少しているのか判断できない。

【保全上の留意点】

イシガイ科貝類であるので水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、分布、生息情報の集約が不可欠である。

【特記事項】

千葉県(2000)では最重要保護生物にランクされている。岐阜県(2001)では情報不足とされている。

【引用文献】

- 岐阜県, 2001. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物. 350pp.
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

県内分布図



ニホンマメシジミ *Pisidium nipponense* Kuroda

【選定理由】

マメシジミ科は大型種でも殻長 5mm 程度の微小な二枚貝。全国的に分布し、低地から高山地の湧水のある湖沼や湿地、山手の水路などに生息し、20 あまりの種や亜種名が記載されているが、明らかに分別できるものは少なく、未だに分類は混迷している (増田・内山,2004)。愛知県内でもマメシジミ科貝類が数地点から採集されているが、未同定で、かつ平野部から山地まで本科貝類の生息環境の調査がほとんどされていない。近年 1 例だけニホンマメシジミと同定される種の産出が報告された (藤原,2002)。このような事情から、この類の代表として確実な生息記録のあるニホンマメシジミが情報不足種として選定された。



新城市(旧鳳来町)知幸部産, 2001 年 5 月, 藤原隆則 採集
(かきつばた 28 より転載)

【形態】

殻長 3~5mm、殻は薄質で白色から灰褐色、半透明、繊細な成長脈がある。殻頂は後方に位置する。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように新城市 (旧鳳来町) に 1 地点生息が確認されているに過ぎない。調査不足である。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。本州から九州に分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

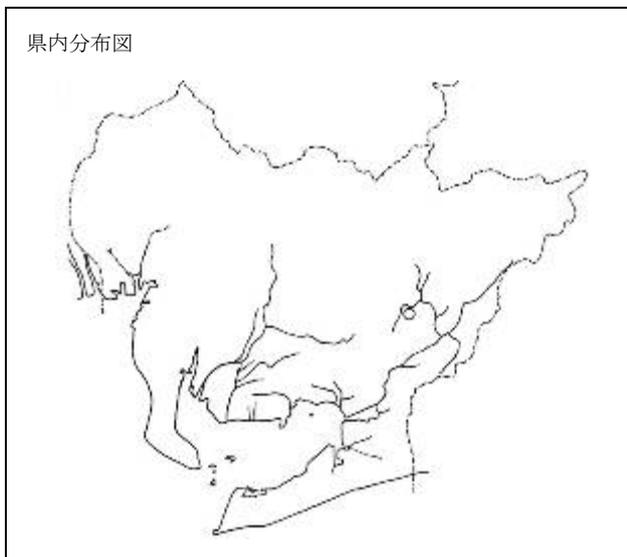
【現在の生息状況 / 減少の要因】

生息状況については情報不足である。

【保全上の留意点】

情報不足である。

県内分布図



【引用文献】

藤原隆則, 2002. 愛知県初記録のニホンマメシジミ. かきつばた, 28:11-12. 名古屋貝類談話会.
増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水産貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ. 240pp.

ヒメカノコ *Clithon (Pictoneritina) oualaniensis* (Lesson)

【選定理由】

本種は内湾の河口域の泥干潟に生息する。本州房総半島以南琉球列島までに分布するとされているが、千葉県では絶滅し、和歌山県では希少である。一方、屋久島以南では産地が多く多産する(和田ほか,1996)。本県では正式な生息記録がなく、名古屋港の埋め立て地で死殻が採集されただけで(河合秀高氏私信)、近年の生息記録はない。本県における本種は南方からもたらされた幼生がたまたま定着する偶存種の可能性がある。いずれにしても情報不足である。和田ほか(1996)では、希少(日本本土)、普通(屋久島以南)とランクされている。

【形態】

殻長約 1cm、の球型で、螺塔は低い。殻表は平滑で光沢があり、黄褐色の地色に縦縞と三角形の鱗模様がある。色彩、模様は個体変異が多い。蓋は石灰質。



愛媛県御荘干潟, 2006年5月27日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内で正式産出記録はなく、現在生息が確認されている場所もない。

【世界及び国内の分布】

日本、中国、インド・太平洋に分布。国内では房総半島以南から琉球列島まで分布するとされているが、本州では産地、生息数とも非常に少ない。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

生息状況については情報不足である。

【保全上の留意点】

情報不足である。

【特記事項】

千葉県(2000)では千葉県からの産出記録はなく情報不足種にランクされている。

【引用文献】

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

サザナミツボ *Elachisime ziczac* Fukuda et Ekawa

【選定理由】

本種は最近記載された微小種で内湾奥に生息することが知られているが、詳しい生息場所については明らかにされていない (Fukuda & Ekawa, 1997)。県内でも生きた個体は採集されていない。ただし、軟体部の残った個体が複数、三河湾、伊勢湾の4カ所から採集されているので (田中・河合, 1998; 河合, 1998)、県内に生息していることは確実である。しかし、本種は微小種で最近記載されたことなどから、打ち上げられた死殻に関する情報も非常に少ない (田中・河合, 1998; 河合, 1998)。和田ほか (1996) では、希少とランクされている。

【形態】

殻長約 2mm 微小な卵型の貝。殻は光沢のあるガラス質。殻表にジグザグの螺溝を多数めぐらすことが特徴である。



美浜町布土, 1998年6月, 河合秀高 採集(打上げ死殻)

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように打ち上げられた個体が県内4カ所で採集された。

【世界及び国内の分布】

日本でのみ発見されている。浜名湖、三河湾、伊勢湾、的矢湾、瀬戸内海、玄界灘に分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

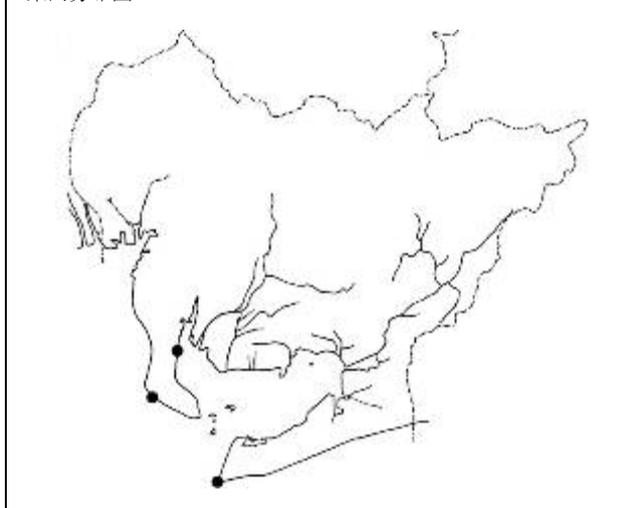
【現在の生息状況 / 減少の要因】

生息状況については情報不足である。

【保全上の留意点】

情報不足である。

県内分布図



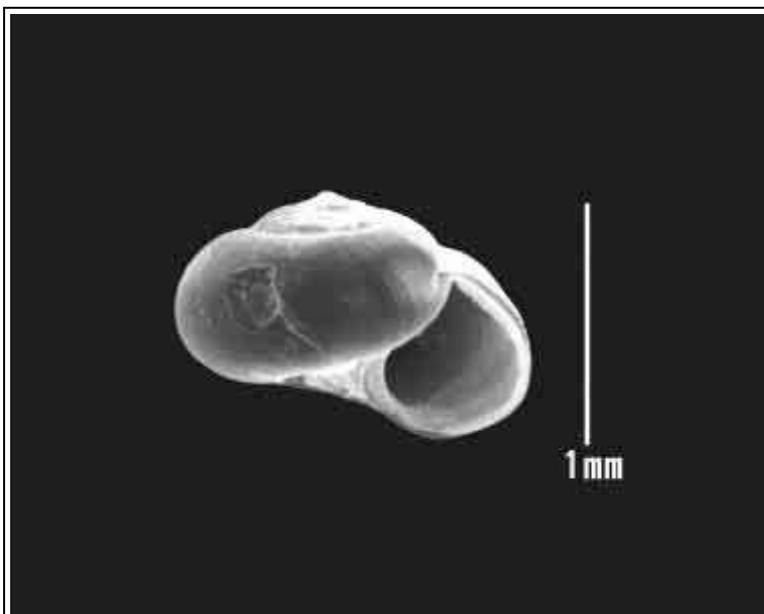
【引用文献】

- Fukuda & Ekawa, 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda:Rissooidea) from Japan. *The Yuriyagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi*, 5 (1/2): 69-88.
 河合秀高, 1998. 内湾性稀少種サザナミツボの新産地. *かさつばた*, 24: 16-17. 名古屋貝類談話会.
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. *WWF Japan Science Report* 3, 182 pp.
 田中利雄・河合秀高, 1998. 愛知県渥美半島西ノ浜の打上げ貝. *豊橋市自然史博物館研究報告*, 8: 33-36.

カハタレカワザンショウ (未記載種) Gen. et sp.

【選定理由】

本種は和名だけが提唱された未記載種で、属位についても不明である(和田ほか,1996)。県内では内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地内の転石下より採集された(木村・木村,1999)。本来は内湾域の転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。そのような環境は県内では詳しく調査されていないこと、本種は微小種で発見するのが難しいことなどから情報不足とされた。



汐川干潟, 1995年10月2日, 木村昭一 採集

【形態】

カワザンショウガイ科としては特異な形態で、螺塔が低く臍孔は大きく開く。殻は殻径が1.5mm程度の微小種。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように調査不足である。

【世界及び国内の分布】

現在まで日本でのみ発見されている。三浦半島(和田ら,1996)、三河湾(木村・木村,1999)、英虞湾(河辺,2000)、瀬戸内海(山口県山口市、小野田市)、高知県須崎市、鹿児島県川内市(和田ら,1996)などで発見されているにすぎない。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

生息状況については情報不足である。

【保全上の留意点】

情報不足である。

【引用文献】

- 河辺訓受, 2000. 志摩地方採集・観察調査会報告. かきつばた, 26: 21-24. 名古屋貝類談話会.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.